

## 市長と語る会 会場：須玉ふれあい館

北杜市の図書館8館を3館にして、残り5館はコミュニティcommonsにするとあるが、それぞれ個性的な図書館なので、司書の方がいる図書館の存続を求める。

教育長：

提言された内容について市民の皆様に広く周知し、今後、ご意見を伺いながら、具体的な検討に入っていきたい。

8館の休みを違う日にする、自動車文庫など、利用者の立場に立った図書館の運用の仕方が市民のためになるのではないか。

教育長：

ハード面を今後検討していくが、これを機会に、ソフト面についても今のご意見を参考に検討していきたい。

デマンドバスは土日が使えない、3日前じゃないと予約ができないなど、使いづらい。デマンドバスを推し進めるのであれば、そこをもう少し改善の余地があるのではないか。

市長：

ここにバス停が欲しい、休日は運行していないなど、デマンドバスには運用面の課題がある。改善すべきところは検討していきたい。また、しっかり皆さんに周知し、多くの方にデマンドバスを使っただけのようにしていきたい。

地域委員全体ないしは有志と市長・市役所・小淵沢地域委員有志の活動の共有も含めて、意見交換の場を望む。

一般的には700m以上ですと上質なワインは作る事が出来ないと言われる。冷害になったら、そこで作れなくなるというリスクを考えていただきたい。

7年前に作った富士見町のコワーキングに、たくさんの北杜市民の優秀な人たちが通っている。市内のコワーキングスペースとの違いをぜひ一度学んで、改善をお願いしたい。

市長：

地域の方が地域のことを一番よく知っているため、令和7年度を目途に、地域で地域の課題を解決できる組織が作ればと思い、準備を進めている。その際に、地域の皆様からたくさんご意見いただければありがたい。

富士見町のワーキングスペースが非常に賑わっていることは私も承知している。また、北杜市から世界一を取るような素晴らしいワインが生産されている。そんな北杜市ならではの取り組みをしていきたいと思っているので、ご理解願いたい。

低酸素化地域のことをずっと提案していたが、やはり受け入れていただけなかった。もう少し我々などいろんな方の意見を聞く耳、ないしは専門家の人材を育成して公平な形で議論をするということが一番大事である。「北杜は一つ」には私も賛成だが、各自治体の中にある各旧市町村の素晴らしさを作っていくことが基本であると、方針にぜひ入れていただきたい。

市長：

いろんな方の民間の方のご知見いただくように努力していきたい。また、脱炭素地域の計画にも反映できるものは反映していきたい。

北杜市の個人情報の取り扱いについて、市のホームページに私の住所・氏名・電話番号が無断で掲載された。事前に何の連絡も受けていないので、もちろん許可をしていない。市に対する信頼が揺らいでいる。個人情報保護法はないがしろ、市が決めたルールも守らない、そもそも市民への配慮にも欠けているのではないか。

市長：

現在、審査請求いただいております。回答することにより個人情報に当たるおそれもあることから、コメントは控えさせていただきます。

少子化問題について、子どもの数を倍にするという努力をお願いしたい。

また、これからも市として農業や環境問題を大きな目標として進めてもらいたい。

市長：

社会全体で子育てに取り組んでいくということがますます必要であり、子どもが増えるよう、持続可能な形でこれからも取り組んでいきたい。農業については、北杜市産米を台湾へプロモーションしたり、ロボットを導入し、多くの方が農業に参入できるように取り組んでいる。また、環境については、北杜市の森や水は一番の財産だと思っている。この財産を守るように取り組んでいきたい。

医療情報は非常にプライバシー性が高く、センシティブな個人情報である。保険証をマイナンバーカードに紐付けしてしまうということについて、市長の責任でご一考いただきたい。

市長：

国内でマイナンバーカードに他人の情報が紐づけられるという事案が発生し、マイナンバーカードへの信頼が揺らいでいる状況にあるが、市としてマイナンバーカードの信頼回復に協力したいと考えている。

必要なのは、他者の目線に立つ発想をもうちょっと加えるべきだってことだと思うが、まずさまざまな計画の前ですぐできることがある。他者の目線でもわかるように、バス停をもっと大きくしてほしい。

市長：

改善できるように進めていきたい。

中部横断自動車道の開通はいつ頃になるのか。現在、どのような進行状況なのか。経済効果が非常に高いと思うので、早期の全線開通を望んでいる。

市長：

何度も要望を行っており、国土交通省から早く示されることを待っている状況である。声をたくさんあげていただくことも非常に大事だと思っている。一緒に建設促進に取り組んでいきたいので、ぜひともよろしく願いたい。

高齢化率の高い北杜市の中であって白州地区は46%を超えている。高齢化率の高い北杜市においてその問題をどうするのか。

市長：

ご高齢で元気に働いている方や活躍されている方も多くいらっしゃる。ぜひそういう元気な高齢者の方もしっかりサポートしていきたいと考えている。

市道に草木がはみ出して通行しにくく、荒れている。

また、高齢者が増えていると同時に新住民も増えている。新住民の意見を市政に反映していく仕組みを作ってほしい。

市長：

主要市道はしっかり整備するため、予算を計上する中で市道の維持管理の整備に現在努めている。

また、開かれた行政ということで、広報紙へ市長への手紙を折り込み、多くの市民からご意見をいただいている。市長への手紙の内容で改善できるところは改善するように努めている。住民の方々の意見は非常に大事だと思っており、職員にも言っているし、私自身もそのように心がけている。

太陽光発電設備に応じて、敷地までの距離を5mに誘発するという話を聞いたが、それはどなたの発案か？

市長：

離隔距離を5mにしてほしいという要望をいただいていることもあり、市としては業者の皆さんには5mということで指導していることをご理解いただきたい。

私が聞きたいのは、どなたが初発案したかということである。

市長：

繰り返しになるが、そのようなご要望に応じて、5mの距離で指導している。

どなたが発案または採用したのか。名前もしくは部署を教えてください。

市長：

私である。

条文のどこかに5mが存在するのか。市長が部下に指示を出した文章があるのか。

建設部長：

離隔距離については、推奨事項としてお願いしている。また、ホームページ等で推奨として掲載している。

ホームページのどこに掲載しているのか。

建設部長：

ホームページで「太陽光」で検索すると出てくる。また、窓口に来られる業者に対し、5mの離隔距離を取るよう推奨している。

条例を変更するということを考えているか。

建設部長：

今のところ変更する予定はない。

条例を変えないならば、違法行為や危険行為にはならないか。

建設部長：

条例では離隔距離は1mとなっているため、あくまで推奨事項として離隔距離を5mにするということを業者に理解いただくということになる。